

**2020年度岡山県高梁市  
「発達障害児に対する地域連携支援事業」成果報告書**

1 事業の目的

発達障害のある子どもに携わる保育教諭や教職員、関係機関等の専門性を高めるとともに、地域縦横連携を図りライフステージの移行による基本的な支援構造の変化を最小限に抑えることで、発達障害のある子どもやその保護者の負担を軽減できる継続した移行支援体制を整備することを目指す。

2 実施団体 高梁市教育委員会、高梁市自立支援協議会児童部会

3 地域連携支援委員会の設置

<地域連携支援委員会>

	開催日	内容
第1回	8月18日(火)	・令和元年度の活動振り返り ・令和2年度の活動予定について
第2回	9月8日(火)	・支援体制図の修正について ・年間活動計画について ・医療的ケア児支援体制について ・相談支援ファイルについて ・子育て応援リーフレットについて
第3回	10月13日(火)	・相談支援ファイルに関するアンケートの実施について ・特別支援教育研修会について
第4回	11月10日(火)	・相談支援ファイルに関するアンケートの内容について ・子育て応援リーフレットについて ・特別支援教育研修会について
第5回	12月8日(火)	・相談支援ファイルに関するアンケート送付準備作業 ・「医療的ケア児支援体制協議会(案)」について提案 ・特別支援教育研修会について
第6回	2月9日(火)	・特別支援教育研修会の振り返り ・相談支援ファイルに関するアンケート集計結果確認

<地域連携支援委員（所属）>

NPO法人color
健康の森学園支援学校
岡山支援学校
倉敷児童相談所高梁分室
NPO法人発達支援ネットワークつむぎ
倉敷まきび支援学校
備北保健所
たかはし発達障害者支援センター
NPO法人color(みずたま)
高梁市役所健康づくり課
高梁市役所こども未来課
高梁市役所福祉課
たかはし松風寮指定相談支援事業所
高梁市役所学校教育課

4 地域研修会の実施

(1) 日時 令和2年12月17日(木) 15時00分 ~ 16時40分

(2) 会場 高梁総合文化会館レクチャールーム

(3) 参加者 幼稚園・保育所の教職員17名、医療・保健・福祉機関の職員14名、  
教育関係機関の教職員19名 合計50名

(4) 活動のねらい

発達障害児のライフステージに携わる支援者を対象に、専門性を高めるとともに支援の引き継ぎや縦横連携間の情報共有の重要性について啓発し、移行支援体制の整備につなげる。

(5) 活動内容

講演：「気になる子どもの理解と支援 ～地域の連携をふまえて～」

講師：くらしき作陽大学 子ども教育学部 教授 橋本正巳 先生



## (6) 活動の成果と反省点

### ①活動の成果

- ・ 高梁市では、就学への移行をスムーズに行うため、学校園・保護者・保育士・療育機関等の関係者が集まり、移行支援会議（スクラム会議）を行っている。限られた時間の中で情報共有を行うため、高梁市では相談支援ファイル（「すてっぷ」）を作成しているが、十分に活用されていない状況であった。そこで、その内容や活用方法について改めて共通理解を図った。
- ・ 橋本先生の研修会は、対応方法が具体的でわかりやすく、支援者間での気づきを共有する重要性と、現在の対応や支援を再確認することができた。

### ②活動の反省点

- ・ 保育教諭や教職員、療育機関や保育士など、特別支援教育に携わる多くの人の参加ができるよう、研修会の日時の設定を行ったが、日常の業務の関係で、参加者が限られてしまった。研修会の回数を増やすことには限界がある。今まで行っている活動の中に、学校園と関係機関等が集まる場をいかに組み込んでいくか工夫が必要である。

## (7) 課題

- ・ 相談支援ファイル（「すてっぷ」）の活用に関して、学校園の教職員、支援を必要とする児童生徒の保護者へのアンケートを実施した。アンケートの詳細な結果については集計中であるが、内容や活用方法について、十分な周知が行われていない状況であった。今後は、校園長会や特別支援教育コーディネーター研修会での周知とその活用具体例について検討を行っていく必要がある。
- ・ それぞれに業務改善が叫ばれる中、また、対応ケースが膨らむ中、移行支援会議（スクラム会議）等の時間の調整が難しい現状である。
- ・ 高梁市には、各方面で子ども達を支援する体制があるが、これらに関係のある児童生徒の保護者にどう周知していくかが課題である。

## (8) 今後の展望

- ・ 特別支援教育への理解が進み、就学する際、特別支援学級入級を希望する保護者が増えてきている。特別支援学級に入級すれば、手厚い個別の支援が受けられるという認識となっている。しかし、児童生徒の将来を見据え、集団での学びの意義についても、保護者に理解啓発を行っていく必要がある。
- ・ 高梁市において、障害のある児童生徒がスムーズに学校間を移行できるようにするためのシステム（ハード面）は整備されてきている。しかし、実際にそれを運用する教職員や関係機関との連携に対する意識（ソフト面）が高まっているとは言えない。今後も、学校園の関係者と関係機関等が、実際の顔を見て互いの思いを共有することのできる場づくりを行っていきたい。